

宮工親文

念願の優勝!!

昨年のリベンジを果たしに



▲女子バスケット シュ〜〜ト！入れえ〜〜！！

女子バスケットボールで優勝したインテリア科三年遠山はるなさんにインタビューをさせていただいた。まず始めに一番戦っていて強かったところは、二回戦のインテリア科一年のチームが強敵だったと仰っていた。優勝するための作戦は、特になかったそうだが、作戦がなくてもチームワークによって連携が出来ていたのだと思った。

球技大会で優勝して思ったことを伺ってみると、去年も同じメンバーで球技大会に出場して優勝できなかった分、今年やっと結果がだせてうれしかったと仰った。優勝したことの達成感だけではなく、去年のリベンジができたということも、喜びに繋がり、良い球技大会だった。

今回のインタビュから、球技大会は、勝敗だけではなく、勝ち残った他のクラスを応援したり、いつもとは違う人たちと関わることで、クラスや科を越えて楽しめる素晴らしい行事だということを感じた。

(インテリア科二年 黒澤 麗奈)

激戦の末

響いた歓声の中で

発行日

2018.11.5

宮城県工業高等学校

新聞部

狙い通りの優勝

八月二十八日〜三十日の三日間の開催された球技大会では、今年は運動会が中止になってしまったため初めてクラスTシャツを着ての行事となった。

今年は運動会に続き天候に恵まれず、開催中の三日間とも雨が降ってしまい、ソフトボールがドッジボールに変更となったり競技変更があったりしたが、そんな天候や状況をものともせず、大会はとても盛り上がりつつあった。

今年の男子バレーボールはどの試合も白熱しており、特に決勝戦の試合は両チーム共レベルが高く、どちらが優勝するかわからない程実力が拮抗していた。各チーム共に一点が入る度、歓声が上がり、その歓声は体育館中に聞こえる程だった。

激戦の決勝戦を勝ち上がり、今年の優勝チームは電気科三年二組に決まった。

鹿野創太さんに「大会中のバドミントンは三日間ある球技大会の中で二日目に終わる。今回は男子部門の中で優勝した電気科三年二組の戸部駿英さんと齋大貴さんにお話を伺った。

戸部さんたちは優勝を目標にバドミントンの競技を選んだそう。普段の練習では試合形式を中心にし、大きな声で声掛けをする事を意識した。また、試合の時のオーダーをよく考える事で見事優勝することが出来た。実際に見ていたが男子の試合は力強いスマッシュが飛び交い、連携しながらの素早い動きがとても見応えがあった。また、女子の試合は、長いラリーがありハラハラさせられる試合だった。

今年のバドミントン優勝気持ちちは？」と伺った処



▲男子バドミントン 力強いショット

クラスは男子は電気科三年二組、女子はインテリア科二年だった。そのため、来年は一年生が下克上するのかがとても楽しみだ。そして、今年のように見逃せない試合に期待したい。

(インテリア科二年 安藤なつみ)



▲男子バレー決勝戦の試合の様子

「優勝する気持ちが強かったが、不安もあった」と感想をいただいた。

今年の球技大会は一年生が二、三年生を相手に勝ち上がったっており、どちらが勝つか分からない試合が多かったのも、大会が大変盛り上がりつつあった。来年はどのような大会になるのか楽しみだ。

(情報技術科二年 佐々木 峻)

来年は女子も...

今年の球技大会は運動会に引き続き天候に恵まれず、外で行うソフトボールが中止になってしまった。その代わりに球技大会最終日、急遽ドッジボールをする事になった。急な変更にも拘わらず、選手たちはコートの中で優勝目指して頑張った。

球技大会担当の体育科半田佳之先生にお話を伺った。ドッジボールに変更になったのは、使える場所が第二工業体育館のみで、皆がルールを知っていて、ということができるのはドッジボールだろうということになったそう。今回は変更になったので男子のみだったが、もし要望があれば女子の開催も検討するらしい。観戦していてとても面白かったし、私もプレーしてみたかった。来年は女子もやってみたら面白いと思う。

(インテリア科二年 高橋 桃子)



▲ドッジボール ゲームの様子

ひとこと

★今回の球技大会は、運動会に続き天候に恵まれなかったが、試合中はとても盛り上がりつつあり、観戦しているこちらが緊張する程白熱した試合が多い印象が強かった。(情報技術科二年 佐々木 峻)

★球技大会では、どのチームも一生懸命正々堂々戦っていて観戦している私達も盛り上がるのがとても楽しかった。そのため、来年もこのような催し物があることに期待したい。

(インテリア科二年 安藤なつみ)

★今年は昨年に引き続き大盛り上がりとなった。悪天